

村^{そん}夜^や

白^{はく}居^{きよ}易^い

霜^{そう}草^{そう}蒼^{そう}蒼^{そう}として 虫^{むし}切^{せつ}切^{せつ}

村^{そん}南^{なん}村^{そん}北^{ぼく}行^{こう}人^{じん}絶^たゆ

独^{ひと}り門^{もん}前^{ぜん}に出^いでて野^や田^{でん}を望^{のぞ}めば

月^{つき}明^{あき}らかだして 蒼^{きよう}麦^{ばく}花^{はな}雪^{ゆき}の如^{ごと}し



【作者】白居易（七七二〜八四六年）。中唐の詩人。字は楽天。号は醉吟先生・香山居士。弟に白行簡がいる。鄭州新鄭県（現河南省新鄭市）に生まれた。子どもの頃から頭脳明晰であつたらしく五〜六歳で詩を作ることができ、九歳で声律を覚えたという。家系は

地方官として役人人生を終わる男子も多く、拔群の名家ではなかつたが、安祿山の乱以後の政治改革により、比較的低い家系の出身者にも機会が開かれており、八〇〇年、二十九歳で科挙の進士科に合格した。三十五歳で盩厔県（ちゆううちつけん、陝西省周至県）の尉になり、その後は翰林学士、左拾遺を歴任する。このころ社会や政治批判を主題とする「新樂府」を多く制作する。八一五年、武元衡暗殺をめぐり越権行為があつたとされ、江州（現江西省九江市）の司馬に左遷される。その後、中央に呼び戻されるが、まもなく自ら地方の官を願い出て、杭州・蘇州の刺史となり業績をあげる。最後は八四二年に刑部尚書の官をもつて七十一歳で致仕。七十四歳のとき自らの詩文集『白氏文集』七十五巻を完成させ、翌八四六年、七十五歳で生涯を閉じる。

【語釈】*村夜：村里の夜。村里の月明の夜の情景。 *霜草：しもの降りた草。 *蒼蒼：老いたさま。頭髮の白髪交じりのさま。ここでは、霜の降りた草のようす。…*切切：胸に迫るように悲しいさま。

【通釈】しもの降りた草は、白髪交じりの頭髮のように老いた姿をして、秋の虫の鳴き声はもの悲しげで胸に迫まってくる。村のどこも、道行く人は途絶えて静まりかえっている。ひとりだけで、正門外に出て、田野を遠くまで見わたせば。月明かりの下に、ソバの白い小さな花が畑一面を覆い、そのため、雪のように真っ白に輝く畑が続いている。